

令和3年度 神崎高校 学校評価 平均値一覧表（本評価）

教育理念：本校の教育は、校訓「自主・創造・勤勉」を具現化し、社会に貢献できる「こころ豊かで自立する人間」を育成するものでなければならない。

教育方針：将来、「この地域を支える人材の育成」に重点を置き、基礎学力、社会性、礼節を兼ね備えた健全な人間を育む教育を、地域とともに展開する。

- 教育目標：**
- ①まず、命を大切にでき、日常生活の基礎・基本を備えた人間を育む。
 - ②的確に判断し、自主的・主体的に行動できる人間を育む。
 - ③自己と同様に他を思いやり、尊重しあって生きることができ人間を育む。
 - ④「知徳体」力のバランスがとれ、夢や志の実現に努力できる人間を育む。

本年度の重点的な取組とその達成状況（内部評価）

			4…よくできた	3…できた	2…あまりできなかった	1…できなかった	評価平均
A	命を大切にできる心、主体的・対話的で深い学びを実現する教育指導体制を充実する。	1.全領域でQFT（質問づくり）※1を活用し、命の大切さを学ぶ授業、わかる授業を展開する。 2.少人数授業等を展開し、きめ細やかな指導で能力・適性を引き出し、確かな学力を定着させる。 3.多様かつ特色ある選択科目を設定し、生徒のニーズに合致した教育課程を編成する。					3.1
B	受容と共感を生徒理解の軸に据え、全教職員による生徒指導体制を充実する。	1.生徒の個性・内面理解に努め、自己有用感を育み、人間的なふれあいに基づく指導を行う。 2.規律や規則を遵守することの意義を理解させ、克己心・自制心・社会性を身につけさせる。 3.「高校生心のサポートシステム研究開発校」「高等学校生徒の心身の健康への適切な対応を行うための養護教諭の複数配置に関する研究校」として確実に成果をあげる。					3.3
C	生徒一人一人の興味・関心・能力・適性に応じた進路指導体制を充実する。	1.保護者との連携のもと、興味・関心・能力を踏まえ、個に応じたガイダンスの充実を図る。 2.自己理解を深めさせ、勤労や職業について考えさせることにより、自立心を涵養する。 3.3機関※2との提携により「自らの意志と責任で進路決定する力」を試す機会を創出する。					3.3
D	地域に信頼され、必要とされる「持続可能な開かれた学校づくり」を地域と連携して進める。	1.学校情報を継続的に地域へ発信し、地域に開かれた信頼される学校づくりに努める。 2.地域行事や奉仕活動に積極的に参加し、地域に必要とされる学校としての認知を高める。 3.学校評議員やPTA・同窓会との連携を密にし、学校支援体制を強化する。					3.2
E	校内研修体制を充実させ、教職員の資質能力等の向上を図る。	1.ブリーフ研修をはじめ幅広い研修により、使命感・倫理観・人間性・専門性を向上させる。 2.内部、外部の「学校評価」を活用し、学校の教育活動を客観的・多角的に見る視点を養う。 3.「人事評価育成システム」や「兵庫県教員資質向上指標」を活用して、ワーク・ライフ・バランスの実現を図るとともに、学校経営への参画意識を高める。					3.4

重点的な取組の項目に則した各部・各学年の目標とその達成状況（内部評価）

A	命を大切にできる心、主体的・対話的で深い学びを実現する教育指導体制を充実する。			評価平均	3.1
総3-1	人権に関する授業を実施する	3.0	1年2-1 「Teams」により学習状況を把握し、確かな学力を育成する	2.7	
教1-2	QFT（質問づくり）の手法を使い、生徒の課題解決能力を伸ばす	3.2	1年2-2 「Teams」等を活用した課題、小テスト、再テストなどきめ細やかな教科指導をおこなう	2.8	
教2-1	生徒の進路希望に応じた、多様な選択科目群を備える	3.6	2年1-1 週末課題や小テストを中心に英・数・国の学習を徹底させる	3.4	
教2-2	新指導要領に対応した教育課程を編成する	3.4	3年1-1 朝の小テストを実施する	3.5	
教3-1	課題や、TeamsなどのICTを活用して家庭学習習慣を確立させる	2.7	3年1-2 進学者対象補習、就職者対象補習、校内予備校、各種模試、進路ガイダンスを実施する	3.5	
教3-2	分かる授業の実践と家庭学習により基礎・基本の徹底を図る	3.1			
B	受容と共感を生徒理解の軸に据え、全教職員による生徒指導体制を充実する。			評価平均	3.3
生1-1	各種講演会などを通して、生徒の興味・関心を引き出す	3.4	1年1-1 スーパーオリエンテーションをきっかけに、基本的な生活習慣を徹底的に身につけさせる	2.8	
生1-2	学校生活意識調査を通して、悩みやいじめの実態を早期に発見し、迅速に対応する	3.6	1年1-2 克己心・自制心・社会性を身につけさせる	3.2	
生2-1	生徒指導の基本方針である三本柱（ダメなものダメ、正しい言葉遣い、学校を美しく）を徹底する	3.3	1年3-2 「安全」「安心」「落ち着き」「活気」のある環境をつくるとともに命の大切や人を思いやる心を育てる	3.3	
生2-2	朝の通学指導を通して、交通ルールの遵守を徹底させる	3.5	2年2-1 修学旅行に向けた指導、及び時期に応じたLHRの内容を充実させる	3	
生3-1	部活動や生徒会活動を通して他者を思いやる心を育てる	3.1	2年2-2 中堅学年として学校行事や部活動に積極的に参加させる	3.1	
生3-2	心のサポートシステム研究などを通して、自他の生命を尊重し、心の居場所となる学校づくりを目指す	3.6	3年2-1 行事参加を通じて、協調、協働、助け合いの精神を育む	3.3	
			3年2-2 行事ごとの振り返りをポートフォリオの記録を中心に行う	3.2	
C	生徒一人一人の興味・関心・能力・適性に応じた進路指導体制を充実する。			評価平均	3.3
進1-1	進路ガイダンスや補習等の充実や模試の有効活用を行う	3.4	進3-2 最後まで諦めさせない生徒に寄り添った指導に努める	3.4	
進1-2	夏の三者面談までに査定会を実施する	3.3	2年1-2 家庭との連携を密にし、家庭学習の習慣をつけさせる	3.2	
進2-1	自主的に進路選択がなされるように資料を提供する	3.4	2年3-1 進路ガイダンスを有効活用し、進路情報の迅速な提供を図る	3.3	
進2-2	就職者に対しては応募前見学やインターンシップを実施、進学者に対してはオープンキャンパスの参加を促す	3.4	2年3-2 二者面談、三者面談による進路指導を充実させる	3.4	
進3-1	3機関と提携し、総合およびガイダンスの充実を図る	3.2			
D	地域に信頼され、必要とされる「持続可能な開かれた学校づくり」を地域と連携して進める。			評価平均	3.2
総2-1	定期的なホームページの更新や学校新聞の発行を行う	3.7	3年3-1 二者面談と三者面談を実施する	3.5	
総2-2	PTA活動を活性化し、地域主催行事へ積極的に参加する	2.4	3年3-2 学年通信と学級通信を発行する	3.4	
1年3-1	学校行事やボランティア参加を通じて、協調、協働、助け合いの精神を育む	3.2			
E	校内研修体制を充実させ、教職員の資質能力等の向上を図る。			評価平均	3.4
総1-1	教職員の組織力の強化を図るために防災避難訓練を実施する	3.4	教1-1 QFT（質問づくり）の研修を行い、全教員への周知を図る	3.3	
総3-2	人権に関する職員研修を実施する	3.4			

※1 QFT（質問づくり）：ダン、ロスステインらが開発した「Question Formulation Technique」という質問づくりの定式を通して、人間の知性を引き放つために必要な3つの思考力を養うプログラム
 ※2 3機関：神河町、兵庫大学、姫路獨協大学